

論 説 幸 長 告

第十九卷第四號 昭和八年四月

丹波島橋架設工事報告

准員工學士 森 十郎

Report on the Construction Work of the Tanabajima-Bashi

By Juro Mori, C. E., Assoc. Member.

内 容 梗 概

丹波島橋は長野縣に於て失業救済事業の一として昭和 6 年度より 3 箇年繼續事業として起工せられたるものにして、國道拾號線長野市外犀川に架設せられ、昭和 6 年 12 月起工、昭和 7 年 12 月竣工せるものなり。本文は其工事概要を述べたるものなり（第十八卷第九號彙報參照）。

第一章 総 説

第一節 架 橋 沿 革

丹波島橋は長野市外千曲川の支流たる犀川と裾花川との合流點に架するものにして、國道拾號線及府縣道長野松代線の長野市内に通ずる無比の關門たり。往昔 350 年前慶長 8 年丹波島の渡しが開設せられ、北國街道の關門として軍事並に善光寺參拜用に供せられたり。明治 6 年に賃取舟橋架設され、同 18 年犀川、裾花川の 3 回の大洪水のために舟橋は大被害を受け、明治 22 年第一回の賃取木橋が實現するに至り、同 35 年縣營となり、大正 3 年 3 月に現存の木橋架設され今日に及べり。

以來交通の發達は急進し、1 日の自動車の通過量今日にては平均 1000 臺に達し、且舊木橋にては重量貨物の通過に堪へず交通上の支障甚しく架換の説稱へられしも、多大の工事費を要するため實現するに至らざりき。然るに失業救済事業起さるゝや、その一つとして昭和 6 年度より 3 箇年繼續事業として架換工事に着手せられたるものなり。

第二節 一 般 構 造

1. 橋型及徑間

本橋は長野市の都市計畫による市内より當橋に至る車道 11 米、歩道 7.8 米（片側 3.9 米）、計 18.8 米幅員の國道拾號線と相俟ちて市街橋となすを至當と認められ、歩車道を區別して有效幅員 12.2 米とし、型式もゲルバー式鋼構橋として計畫さる。橋梁の位置が犀川、裾花川の合流點なるため一洪水毎に河底變化するを以て、全長 540 米を鋼構橋とし、背水の影響を少くするため長徑間を採用し 65.0 米とし、兩端の銀錠柱のみ 42.5 米とせり。其一般構造は次の如し。

中央部徑間	65.00 米	7 連
兩端部徑間	42.50 "	2 "
橋 梁 長	541.00 "	
	有 效 幅 員	12.20 米
幅 員	車 道 幅 員	7.50 "
	步 道 幅 員	2.45 "

橋面舗装	車道	ソリデチット舗装
	歩道	セメント・モルタル舗装
境界石		花崗石
橋面勾配	縦断勾配	0.5% 抛物線
	横断勾配	2.0% "
橋臺	車道	2.0% 直線
{ 基盤	基礎	井筒，長 14.6 米，幅 4.8 米，高 5.0 米
橋脚	車道	鐵筋コンクリート
{ 基盤	基礎	井筒，長 12.0 米，幅 3.5 米，高 12.0 米
橋脚	車道	鐵筋コンクリート
鋼構件總重量		2 114.786 吨
鋼材重量	沓總重量	94.358 "
	現場錬數	223 560 本
高欄金物重量(錬鐵)		104.648 吨
鐵筋重量	下部構造物 丸鋼	117.639 "
	上部構造物 丸鋼	45.896 "
	異形筋	58.327 "
セメント	下部構造物 檻數	8 635.2 吨
	上部構造物	3 456.2 "
施工關係者	施工一般	株式會社 間組
	鋼材製作	株式會社 櫻田機械製作所
總工事費		772 834.00 圓
使用延人員		36 304.60 人
勞力費		68 577.14 圓

第二章 設計の大要

第一節 荷重

設計荷重は内務省橋梁設計標準により活荷重は二等橋標準荷重を探る。

1. 活荷重

- a) 群衆荷重 { 車道 $w = 100\ 000 / (170 + l) \leq 500$ 吨/平米
歩道 $w = 80\ 000 / (170 + l) \leq 400$ 吨/平米
- b) 自動車荷重 8 吨自動車
- c) 輪壓機荷重 11 破輪機壓
- d) 自動車衝撃係数 $i = 20 / (60 + l) \leq 30\%$
- e) 風 壓 200 吨/平米

2. 死荷重

各材料の重量及強度は標準規格による。

第二節 主要部材断面

一般形状は附圖第一に示す如し。

全縦断勾配は橋脚天端高にて調節し所定の勾配とし、鋼材製作に於て次の製作反りを附す。

42.50 米	鎮 碇 柄	47 粮
30.00 "	吊 柄	21 "
65.00 "	複 鎮 碇 柄	37 "

鋼材主要断面は附圖第二に示す。

各径間の重量は次の如し。

42.5 米 鎮 碇 柄 (突柄を含む)			
固 定 端 を 有 す る も の		224.161	噸
輻 動 點 " "		224.211	"
30.0 米 吊 柄	4 @ 85.381 =	341.524	"
65.0 米 複 鎮 碇 柄 (兩突柄を含む)	3 @ 408.388 =	1225.164	"
橋 門 構 及 對 傾 構		99.726	"
錨 材		215.000	"
	合 計	2329.786	噸
支 承 齒			
橋 脚 上 { 輪動支承齧	6 @ 6.3965 =	38.379	噸
固定支承齧	10 @ 4.246 =	42.460	"
橋 臺 上 輪動支承齧	4 @ 1.327 =	5.308	"
伸縮接合上 { 輪動支承齧	8 @ 0.652 =	5.219	"
固定支承齧	8 @ 0.374 =	2.992	"
	合 計	94.358	噸

第三章 下 部 工 事

橋臺、橋脚共に基盤は井筒にして、掘鑿にはデリックによりてガットメルを使用し、水中掘鑿をなせり。地質は玉石交りの砂利層にして殆んど潜水夫の使用を要せざりき。

第一節 橋 臺 工 事

兩岸とも同一構造にして、基礎は 14.6 米 × 4.8 米 × 5.0 米の角型井筒なり。沓は 20 桁 × 10 桁 角松材を使用し、井筒天端低水位下約 3 米沈下せしむるため水締切用コンクリート・ブロックを使用して成績を擧げたことは、本會誌第 18 卷第 9 號に述べられたるを以て略す。

工事は右岸川中島側より着手したり。右岸橋臺は沈床の位置にあたり加ふるに井筒の中仕切壁の下端外周壁底と同一面なるために、潜水夫の通路無く一室毎に上りて他室に入らざるべからず。又障害物を噛む隅點多く沈下に際し困難を感じたり。然れども約 3 米沈下後は沈壓石も無くなり、玉石位のものにて沈下は順調に進みたり。

左岸橋臺は井筒の鐵筋を増し外周壁の安全を計り中仕切壁底を拱形に割り施工せり。工程次の如し。

名 称	第一ロット(2.5米)		第二ロット(2.5米)		第三ロット (水締切用) (ブロック)	底 埋 コンク リート 施工	中 埋 コンク リート 施工	軸 盤 コンク リート 施工
	コンクリー ト 施 工	沈 下	コンクリー ト 施 工	沈 下				
右 岸	1 月 12 日 至 2 9	自 1 月 23 日 2 月 13 日 3 10	3 月 7 日 3 26	3 月 16 日 3 26		3 月 29 日	4 月 5 日 4 13	4 月 8 日 4 13
左 岸	3 17 3 18	5.0 米を 1 ロットとす	4 9 4 16	4 29 5 14		5 15	5 24 6 28	5 27 6 28

橋臺 1 個に對するコンクリート量次の如し。

名稱	井筒(1:2:4)	底埋(1:2:4)	中埋(1:3:6)	軸體(1:2:4)
コンクリート量	147.532立米	56.052立米	146.816立米	285.254立米
掘鑿平均土量は 602.685立米なり。				

第二節 橋脚工事

築島

陸上部分は地均をなし、直ちに沓を据え付けたるも、水中の部分は座布圍籠を列べて内側に蓆を巻き、土砂の洗はるゝを防ぎて築島をなし、沓を据え付けたり(寫眞第三参照)。

井筒

井筒は 12.0 米×3.5 米×12.0 米 の椭圆形にして 3 室に分つ。中仕切壁を下端にて 1.5 米の高さに割り、作業を便にして着手せり。コンクリートはすべて浅野ペロ・セメントを使用し養生期間を 5 日間となし、嚴寒期 1 月より 3 月までの間はシート又は蓆にて包み炭火或は電気ヒーターを以て保温し、外氣零下 8 度に至るもシート内は零度以上に保つを得たり(寫眞第四参照)。

掘鑿

地質は砂礫層にて何等障害物なく、デリック 3 台にて昼夜兼行にて掘鑿沈下に従事せり。ガットメルは 18 才 1 個、22 才 2 個を使用せるも、22 才の方成績よく、1 畫夜平均 1 米づゝ沈下せしめたり。沈下荷重は 60 封度 軌條及土砂を用ひ最大 150~200 噸を載荷せり(寫眞第六参照)。

No. 1 及 No. 2 の井筒は最初 2.5 米、次に 3.5 米、最後に 6 米を 1 ロットとして施工せしに、成績芳しからず、他は 4 米を 1 ロットとなして施工せり。工程次の如し。

名稱	第一ロット(4 米)		第二ロット(4 米)		第三ロット(4 米)	
	コンクリート施工	沈下	コンクリート施工	沈下	コンクリート施工	沈下
P ₁	1月 6日 至 1月 19日	自 1月 15日	1月 27日 至 2月 11日	自 2月 8日	2月 18日 至 3月 22日	自 3月 12日
P ₂	1 2	1 8 1 11	1 16	1 21 1 24	2 9	2 16 2 23
P ₃	1 5	1 11 1 12	1 21	1 25 1 30	2 4	2 12 2 21
P ₄	1 23	1 30 2 3	2 7	2 21 2 25	2 29	3 23 3 27
P ₅	1 31	2 7 2 11	2 20	2 26 2 29	3 6	4 2 4 7
P ₆	1 25	2 1 2 4	2 11	2 15 2 19	2 25	3 5 3 10
P ₇	1 29	2 5 2 9	2 14	2 21 2 29	3 3	4 2 4 7
P ₈	2 17	3 1 3 2	3 8	3 27 3 31	4 6	4 17 4 29

名稱	(水締切ブロック) 沈下	底埋		中埋		軸體	
		コンクリート施工	施工	コンクリート施工	施工	コンクリート施工	施工
P ₁	自 4月 4日 至 4月 7日	4月 9日		4月 16日 4月 17日		4月 22日	
P ₂	3 2 3 4	3 5		3 12 3 13		3 20 3 21	

P ₃	自 3月 5日 至 3月 8日		3月 10日	自 3月 16日 至 3月 17日		3月 23日	
	4	16		4	28		
P ₄	4	20	4	23	4	29	
P ₅	4	10	4	17	4	24	
P ₆	3	16	3	23	3	31	
P ₇	5	20	5	25	6	5	
P ₈	5	28	6	7	6	14	
	6	4				6	18

底埋コンクリート(配合 1:2:4)

底埋はバケットを使用し、水中コンクリートを施工せり。底埋厚 2 米なりき。養生期間は 5 日間とし、浅野セメントを使用せり(寫真第五参照)。

中埋コンクリート(配合 1:3:6)

井筒の中央室は中埋コンクリートを入れず、中空なるため水を充したるまゝとなし、浮力に耐へしめ、兩側室の水を 6 時 ポンプにて揚げ、ポンプの及ばざる深部は二叉を組みバケットにて汲み出したり。底より多少の湧水ありたるも、極めて少量にて中埋施工に差支なく、やゝ固練のものを投込む程度にて足れり。

蓋版(配合 1:2:4)

中埋完了後直ちに軸体の鉄筋を組立、蓋版コンクリートを施工せり。

軸體コンクリート

蓋版施工の翌日より鉄筋型枠の組込みに着手し、組み終れば直ちにコンクリートを打ち込み、養生期間 14 日の後型枠を外して後、水締切用ブロックを取り外したり。

橋脚 1 基に對するコンクリート量

名 称	井 筒	底 埋	中 埋	軸 体	計
	(1:2:4) (立米)	(1:2:4) (立米)	(1:3:6) (立米)	(1:2:4) (立米)	
コンクリート量	176.432	52.670	152.00	62.90	444.002 (立米)

掘鑿土量平均 552.516 立米なり。

下部構造に使用せし器具

用 途	名 称	馬 力 数	能 力
掘 鑿	デリック (1)	30 H.P. ウインチ	22 才ガットメル
	〃 (2)	25 〃 〃	18 〃
	〃 (3)	30 〃 〃	22 〃
コンクリート	ミックサー	5 〃 〃	12 才
水 泊 出	ボンプ	15 〃 〃	6 時
	〃	15 〃 〃	6 〃
	〃	20 〃 〃	8 〃
	〃	2 〃 〃	1 〃

下部構造人夫掛

種類	鐵沓据付 (人)	型枠 (人)	足場 (人)	鐵筋 (人)	コンクリート (人)	非筒据盤 (人)	計 (人)
土工人夫	16.4	327.9	58.9	326.1	4 137.0	395.0	5 261.3
大工	—	2 641.3	—	—	—	—	2 641.3
薙工	53.7	—	261.5	—	—	826.0	1 141.2
鍛冶工	70.0	—	—	—	—	—	70.0
鐵筋工	—	—	—	264.3	—	—	264.3
潜水夫	—	—	—	—	—	51.0	51.0
計	140.1	2 969.2	320.4	550.4	4 137.0	1 272.0	9 429.1

第四章 上部工事

犀川は計画洪水流量 100 000 個にして、氾濫時は洪水敷一面に物渡き流速を示して氾濫するため、洪水期に面する 5 月からの鋼材組立に際しケーブル・エレクションにすべきか、或は足場を使用すべきかに就き考究せしが、下部空間が少きこと、仕事が仕易きこと及河床が砂利層にて地盤強固なること等により足場による方法が經濟的なりと認め、後者を採用することとせり。鋼材着駆は長野驛が距離に於て川中島驛より多少近けれども、操車場を平面交叉せる踏切あること、交通量多きこと、而も道路狭きため重量物件運搬には川中島驛を利用するが便なれば、川中島驛を利用することとせり。

足場組立は 4 月 20 日より杭打に着手し、30 日迄に第一連目の足場建設を完成し、5 月 7 日には鋼材組立用デリック組立及第二連目の杭打を終り、5 月 17 日鋼材川中島驛着、直ちに組立に着手、同月 30 日第一連目の組立完成、6 月 6 日第二連目半まで組立たる時、川中島驛構内面積小なるため鋼材山と積まれ、所要材料撰別運搬不可能となりたれば、運搬に全力を注ぎ堤防上又は河原に整理し、6 月 11 日より組立を續け、10 月 3 日完結せり。其間 2 回の大洪水に遭ひしも足場は僅かに 2 檻沈下せる箇所ありし程度の被害にて好都合なりき。然れども鋼材運搬其他に使用せる足場の下に設置せしトロ線は押流され多大の不便を感じたり。

第一節 足場建設

足場は鋼構の格點と一致せしめ、60 封度軌條 3 本組合を渡し、杭打には材料及根入に注意をなし地盤により異れども平均 2 米の根入とし、流木の擊突を防ぐため 3 米根入の杭 3 本に板を張り（附圖第四）たるも、小洪水にて既に倒れかゝり、却つて足場を傷めたれば、第三連目より充分なる根入のもの 1 本とし、足場杭から縦木を取りたり。足場材料は豫め 3 横間分を用意し繰返し使用せり。杭打方法は陸上にては移動機、水中部分は假足場を作り、120 貢のモンキーを使用せり。足場最終沈下は 1~2 檻にして、鋼材荷載後足場は 5~8 檻沈下せり。大洪水に遭遇せる部分は 3~4 箇所補強の必要ありたり。足場建設工程次の如し。

名稱	A ₂ -P ₁	P ₁ -P ₂	P ₂ -P ₃	P ₃ -P ₄	P ₄ -P ₅
組立	自 4 月 20 日 至 5 月 2 日	自 4 月 28 日 至 5 月 14 日	自 5 月 15 日 至 6 月 8 日	自 6 月 9 日 至 6 月 24 日	自 6 月 27 日 至 7 月 30 日
撤去	自 6 月 20 日 至 6 月 30 日	自 7 月 13 日 至 7 月 20 日	自 7 月 30 日 至 8 月 8 日	自 8 月 10 日 至 8 月 31 日	自 9 月 3 日 至 9 月 20 日
名稱	P ₅ -P ₆	P ₆ -P ₇	P ₇ -P ₈	P ₈ -A _L	
組立	自 7 月 31 日 至 8 月 15 日	自 8 月 16 日 至 8 月 31 日	自 9 月 1 日 至 9 月 13 日	自 9 月 14 日 至 9 月 20 日	

撤去	自9月26日 至10月1日	自10月2日 至10月13日	自10月15日 至10月30日	自11月10日 至11月30日
----	------------------	-------------------	--------------------	--------------------

足場建設人夫掛次の如し。

期間	種類	専工 (人)	大工 (人)	計 (人)
7年4月20日～11月30日	杭打	745.2	22.5	767.7
	組立撤去	1639.5	524.3	2163.8
	デリック組立撤去	83.2	18.0	101.2
	計	2467.9	564.8	3032.7

第二節 鋼材組立工事

組立順序

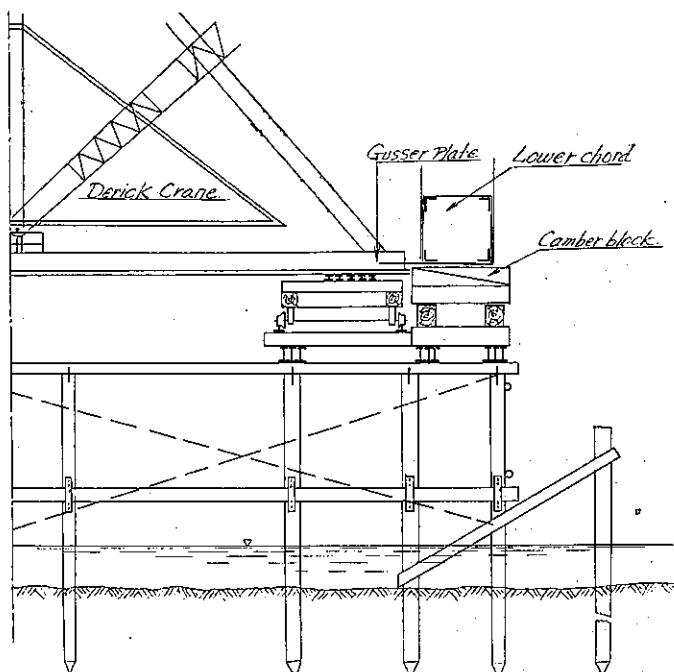
下弦材を繋ぎ反りを調節後組立つる意圖なりしも、デリックの幅廣過ぎ、繫釘が臺車に支へ、デリックの通行を妨げられたれば、この方法を放棄して、各格點を固めて後退式に組立つこととせり。

組立順序としては、下弦材をキャンバー・ブロックの上に載せ、横桁を入れ、下横構、縦桁を取付け、直ちにトロ線を縦桁上に延長し運搬を便ならしめ、垂直材、歩道ブラックット、歩道縦桁、斜材、上弦材、横抗壓材、縦抗壓材の順序に組立を完了し、上弦材は別隊にて後に組立たり。

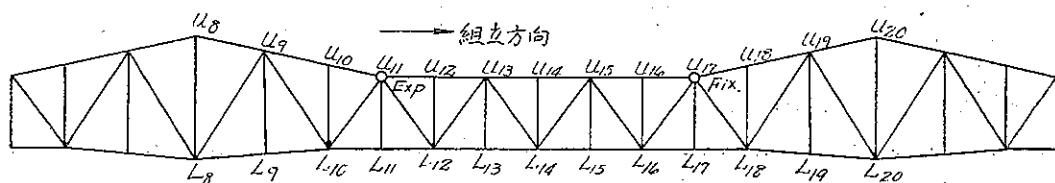
主桁の伸縮接合の部分は、U₁₁～L₁₁を組立、支承沓及ボックスを据付けて吊桁の上弦材 U₁₁～U₁₂～U₁₃を差込みしもボックス内の突隙少く、加ふるに振れ止めの山形鋼等あり差込困難なりき（附図第五及六参照）。ボックス内の空隙は6.5厘にして6.5

厘長以上の鉄を差込み得ざるため釘3枚重以上の所は釘錆不可能にして二重ナットのボルトにて緊締するの余儀なきに至れり。

第一圖



第二圖



然れども U₁₇-U₁₈ を組立たる後デリックを 18-19' 間に置き、 U₁₅-U₁₆-U₁₇, L₁₆-L₁₇, U₁₄-L₁₆ を組立鉄錆したものを釣り込めば鉄錆可能なるも、デリックに能力なければこの方法は斷念せり。

組立に使用せる機械器具

デリック(附圖第三)(30 H.P. 電動三段捲揚機、能力 6.0 吨) 1 台	
ダルマ・ジャッキ	4 挺
箱 ジャッキ	2 "
トランスペース・ジャッキ	2 "

組立工程

名稱	A _R -P ₁	P ₁ -P ₂	P ₂ -P ₃	P ₃ -P ₄	P ₄ -P ₅	P ₅ -P ₆	P ₆ -P ₇	P ₇ -P ₈	P ₈ -A _L
組立	{自 5月17日 至 5月30日	{自 5月31日 至 6月16日	{自 6月18日 至 6月29日	{自 6月30日 至 7月23日	{自 7月24日 至 8月11日	{自 8月12日 至 8月25日	{自 8月26日 至 9月8日	{自 9月9日 至 9月22日	{自 9月23日 至 10月3日

組立人夫掛

種類	期間	薦工 (人)	大工 (人)	計 (人)
鋼材組立	7年5月17日～10月3日	2 311.6	28.2	2 339.8
鋼材小運搬	"	1 748.0	—	1 748.0
計		4 059.6	28.2	4 087.8

第三節 鉄錆

1組 4~6 人より成るもの普通 1日 4組、最大 5組從事し、コンプレッサー 20 H.P. 及 15 H.P. の 2台を鐵管を以て連結し、各作業所に枝管を分岐せり。本橋は特に細々の部分品多く、鉄錆も繁雑にして1日平均1組 650~750 本位を打ちたり。

主桁の組立 キャンバーの調整終れば、直ちに鉄錆し縦桁は後れて別隊をして鉄錆せしめたり。工程鍛冶工掛次の如し。

名稱	A _R -P ₁	P ₁ -P ₂	P ₂ -P ₃	P ₃ -P ₄	P ₄ -P ₅	P ₅ -P ₆	P ₆ -P ₇	P ₇ -P ₈	P ₈ -A _L
鉄錆	{自 6月7日 至 6月19日	{自 6月20日 至 7月19日	{自 7月20日 至 8月4日	{自 8月1日 至 8月14日	{自 8月12日 至 9月3日	{自 9月9日 至 9月24日	{自 9月25日 至 10月9日	{自 10月10日 至 10月22日	{自 10月23日 至 10月31日

鉄錆鍛冶工掛

期間	リーマー (人)	鉄錆工 (人)	機械工 (人)	其他 (人)	計 (人)
自 7年6月7日 至 10月31日	142	2 387	294	236	3 059

第四節 塗工工事

塗工は總て鋼材製作會社にて光明丹 1回塗せしめ、現場にて組立鉄錆後、更に光明丹 1回、灰白色ペイント 2回塗らしめたり。塗料は日本ペイント株式會社の調合ペイントを使用し、上塗のみは床版工終了後塗工せり。高欄も桟と同色に仕上げたり。

塗工人夫掛

工期	塗工面積 (平米)	塗工職 (人)	計 (人)
自 7年8月19日 至 11月30日	29 040	738	738

第五節 床版工事

床版は車道 20 檻、歩道 14 檻厚の鐵筋コンクリート工にして、縦桁の上に直接現場打にて施工す。路面横断勾配車道 1/50 抛物線、歩道 1/50 直線なり。

鐵筋は

車道	横筋	12 粗径リブバー	15 cm	間隔
	縦筋	9 粗径丸鋼		
歩道	横筋	9 粗径丸鋼	15 cm	間隔
	縦筋	9 粗径丸鋼		

を使用せり。排水孔は鑄物にて約 10 米毎に設置し、汚水が鋼材を汚さるやう約 1.5 米の管を付けたり（附圖第七参照）。鋼材主桁の床版コンクリートを貫通する部分にはアスファルト・タイルにて巻き絶縁せり。

施工接目は約 10 米毎に横桁に 1 分厚ボール紙 2 枚を挿入して作り、鋼構の伸縮接合並に 65.0 米鎮碇桁の中央には伸縮接合を設置せり（附圖第七参照）。

床版コンクリート施工方法は全長 540 米の 1/4 の 135 米分の型枠を用意し、全區間を 4 區分し、ミックサー・プレントを第一區間の末端の地盤上に設置し、エレベーターにてコンクリートを捲揚機上の鍋トロに移し、各區間毎に後退式施工せり（寫真第十参照）。

床版工工程人夫掛次の如し。

第一區	型枠 コンクリート	7年 8月10日～9月 8日	大工 (人)	土工 (人)	鐵筋工 (人)	人夫 (人)	計 (人)
第二區	"	9 20	～10	2	1390.7	848.7	222.7
		9 29	～10	4			
第三區	"	10 14	～10	21	10 19	～10	22
		11 1	～11	8			
第四區	"	11 6	～11	10			

第六節 高欄親柱並電燈取付工事

高欄は鑄鐵製にして路面上の高 1 米なり。東柱は直接側縦桁にボルトを以て取付られ、底部は地覆コンクリートに埋込みとなしたるため、甚だ丈夫なるも、床版コンクリート重量のためにキャンバーに變化を生じたる時、高欄も亦之に伴ひ變化し、之が整正は非常に困難なり。其ため地覆の部分と床版とを分ちコンクリートを打ちたるも、成績面白からざるため同時に施工せり。格子金物は上部より東柱間に落し込む装置なり。

照明電燈は橋脚上の垂直材に、路面上 3 米の高さにて歩道側に 1 個宛、8 基分、合計 32 灯の中間電燈を設置せり。之はブロンズ渡金枠に乳白圓筒硝子を挿入せるものなり。親柱は花崗石磨仕上にして之が電燈はやはりブロンズ渡金枠に、モロッコ硝子圓筒を差みたるものなり（寫真第一参照）。

配線は 5 種の第四種線を使用し歩道床版下のプラケットに碍子を取付け、兩側に 1 回線づゝ配線し、左右兩岸より電流を導き、中央にて絶縁し、電圧低下を防げり。電燈は全部 100 ワットを點じたり。

第七節 鋪装工事

車道はソリデット鋪装にして、日本ソリデット會社直接施工せり。設計鋪装厚 3 梶なりしため、床版コンクリートと鋪装との間に中間層として、約 2~3 梶の配合 (1:2:4) のコンクリートを鋪装と同時に施工せるに成績良好なり。床版コンクリート施工により垂れる預定にて、徑間中央部約 2~3 梶上げ越の部分が預定通り垂れずして、中間層を入れる事能はざる部分はソリデット・セメント・トロを敷き、計量通り施工し、充分タンピングをなし、トロを浮かせローラーにて輻輳したり（寫真第十一参照）。

構造接合はミクニ・エラスタイル 1 梶厚を挿入し、約 10 米毎の床版接目と一致せしめたり。

歩道は 1 梶厚のモルタル鋪装の設計にして、床版と同時施工なるも、作業困難なるため床版厚を 12 梶とし、

鋪装厚を 3 檻となせり。仕上は 30 檻角の目地を引き漫仕上げとせり。

車道鋪装に使用せし機械器具は次の如し。

	性 能	數 量
ミックサー	6 才練り	1 台
リヤカー		3 "
ハンド・ローラー	230 吨	1 "
タムバー		6 "

鋪装工程人夫掛

	期 間	施工面積 (平米)	左 官 (人)	人 夫 (人)	計 (人)
車 道	7年10月28日～11月 2日 11 10 ~11 26	4057.5	36	286	322
歩 道	7年10月22日～11月30日	2521.0	108	193.6	301.6

第八節 地覆洗出並境界石

モルタル下地厚 1 檻の上に厚 1 檻配合(1:1) の洗出仕上とせり。セメントは小野田白色セメントを使用し、石粉は寒水石を用ひたり。11月末は寒氣強く成績面白からず、爲に耐寒剤(零下 50 度)を使用せる處、結果良好なり。人夫掛次の如し。

工 期	左 官 (人)	手傳人夫 (人)	大 工 (人)	轍 (人)	計 (人)
7年10月 1日～11月30日	419.2	119.3	62.5	6.6	607.6

境界石(花崗石)人夫掛次の如し。

工 期	石 工 (人)	手傳人夫 (人)	計 (人)
7年 9月28日～11月24日	782.8	128.0	910.3

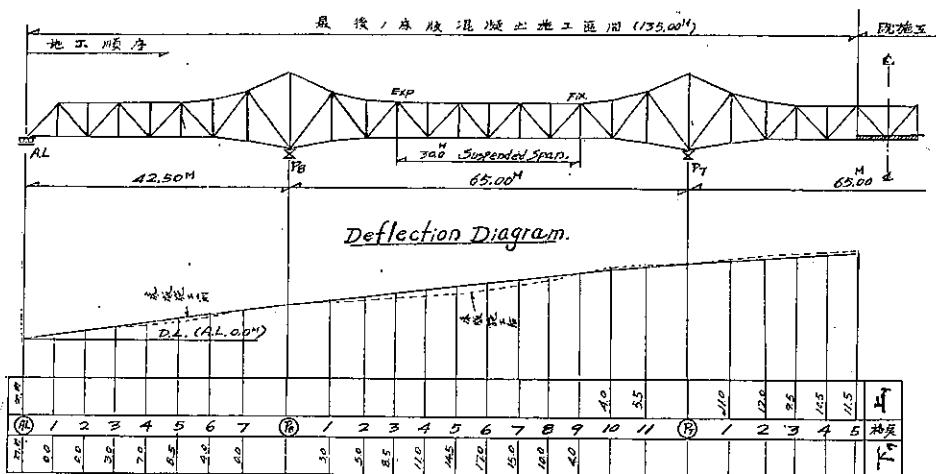
第九節 撥 度

エレクション・キャンバーは中央に於て 18.7 檻を與へ、徑間の一端より小物共悉皆組立てつゝ後退し、1 徑間の架渡を了つて後、下降の程度を測りたるに、足場は 5~8 檻沈下せり。茲に於て足場に對する實際の沈下の量を知れるを以つて、初の之に對する豫定量との差だけ調節せり。之が調節には勾配 1/10 のキャンバー・ブロックを用ひて、格點の兩側に 50 箱のダルマ・ジャッキ 2 台にて押上げブロックに依り調節せり。鉛錐を了し足場取外し後 1.6~2.0 檻、床版コンクリート及鋪装完了後 1.9~2.5 檻の下降を見たり。

最後の床版コンクリート施工に於て、撋度の關係を測定せしに、第三圖の如き撋度圖を得たり。

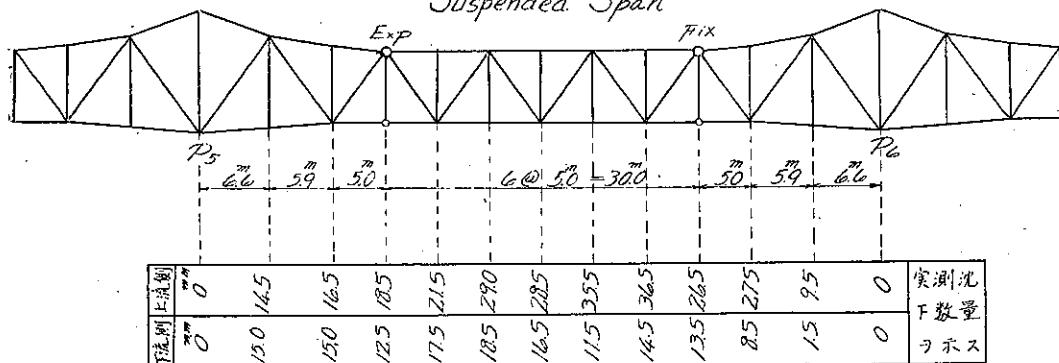
尙竣工式當日の群集荷重(L. L.)に因る撋度を第五圖の如き方法に依り測りたるに、下降 1.5 檻、上昇 0.3 檻の結果を見たり。

第三圖

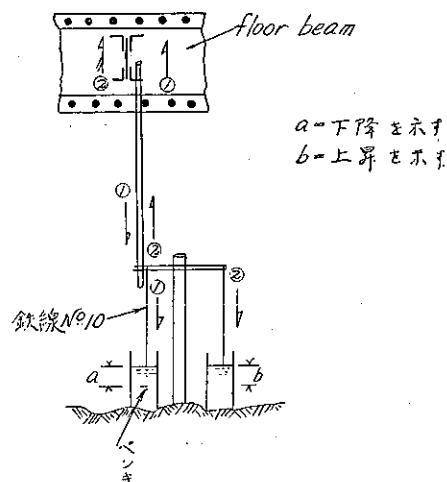


第四圖 キャンバー・ブロック取外後沈下状況

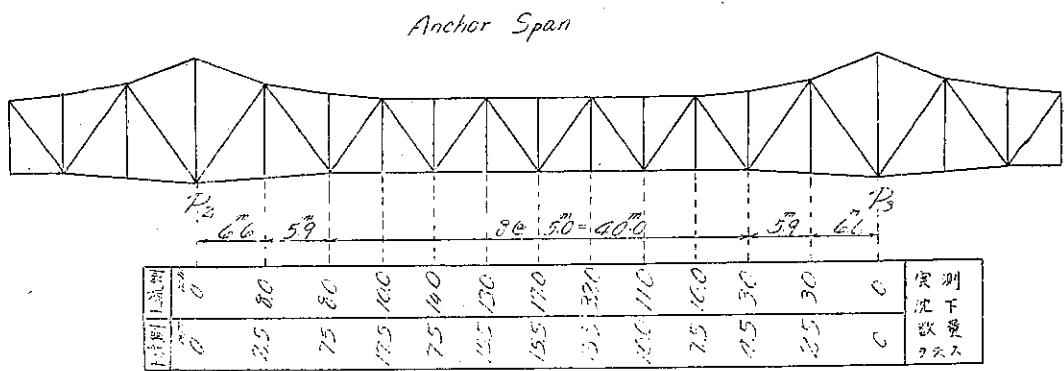
Suspended Span



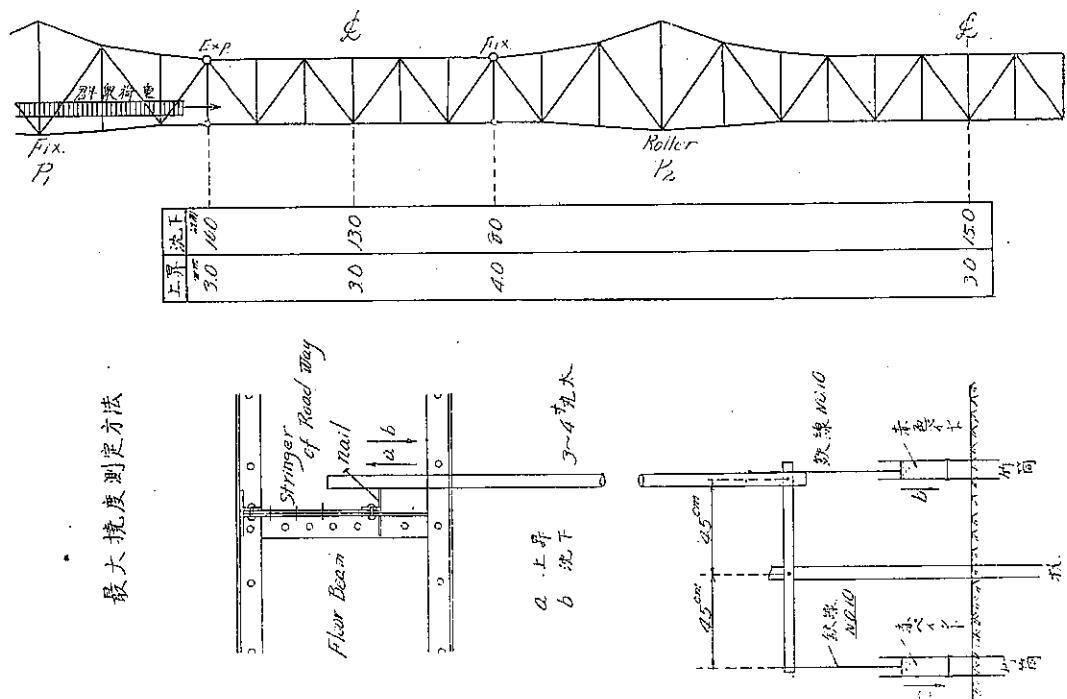
第五圖



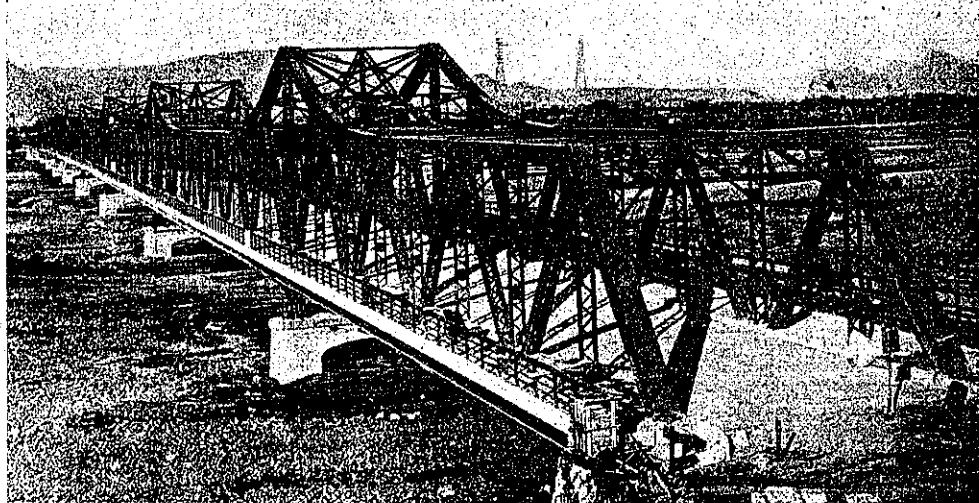
第六圖 床版コンクリート施工後沈下状況



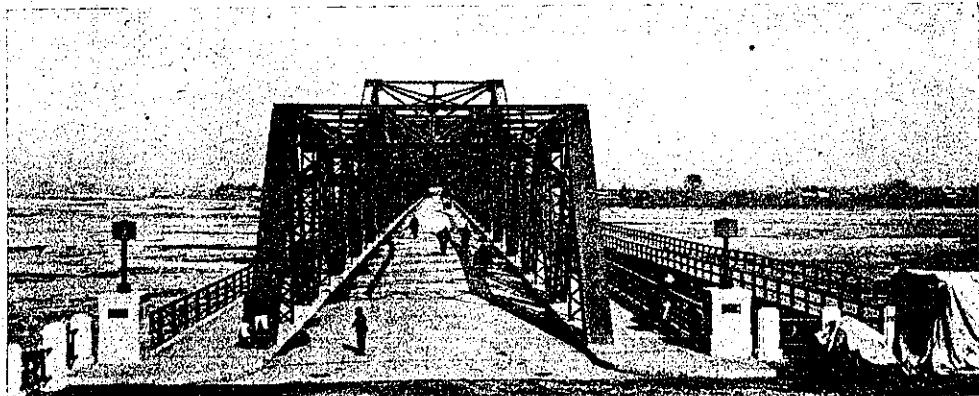
第七圖 開通式當日に於ける實測最大撓度



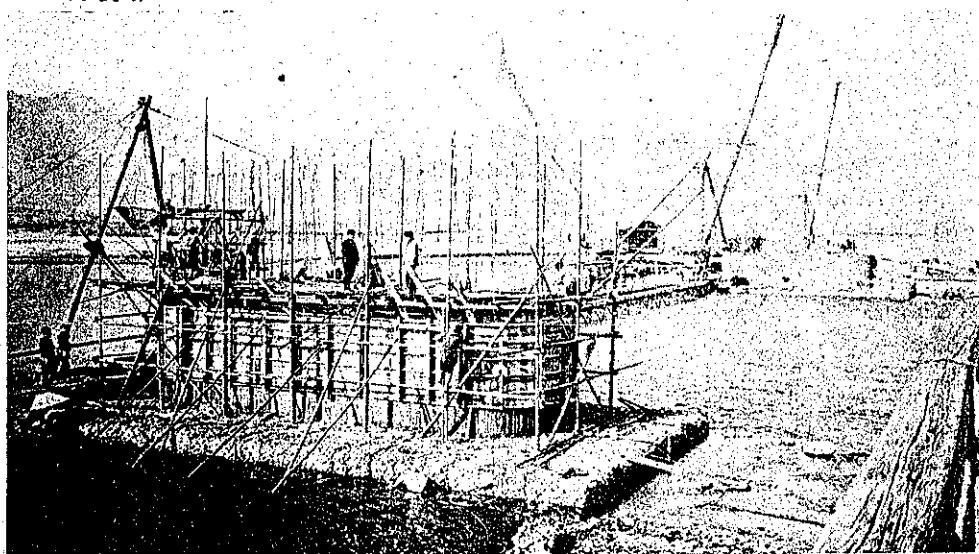
写真第一 竣工間近の丹波島橋



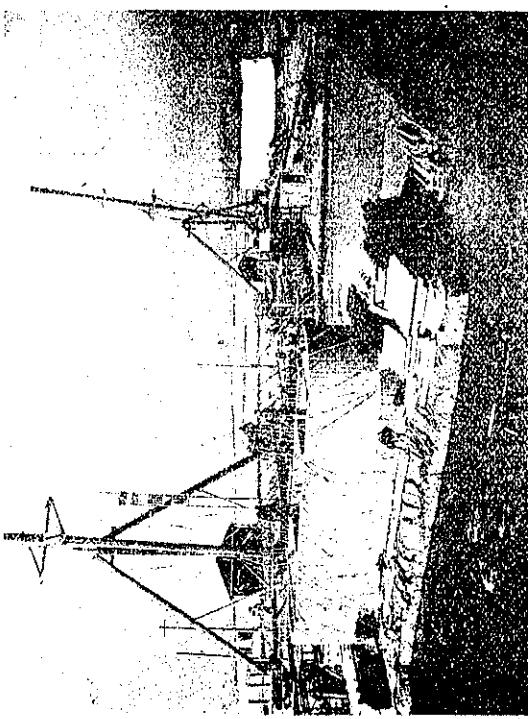
写真第二 竣工せる丹波島橋



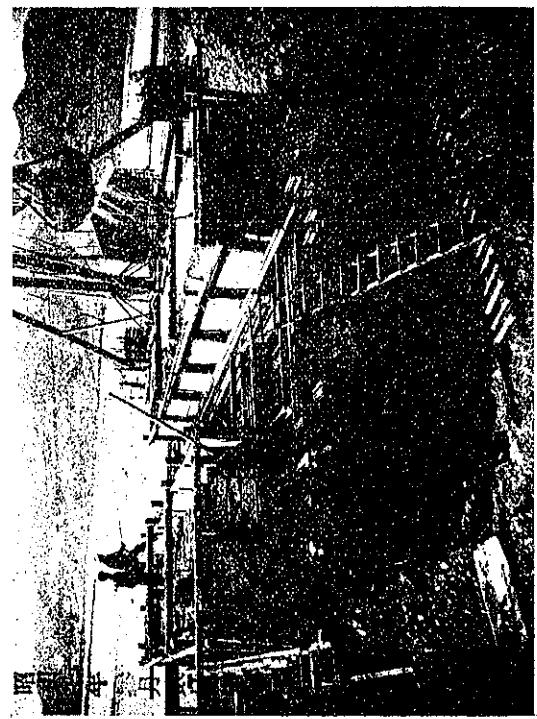
写真第三 葉島による井筒掘付



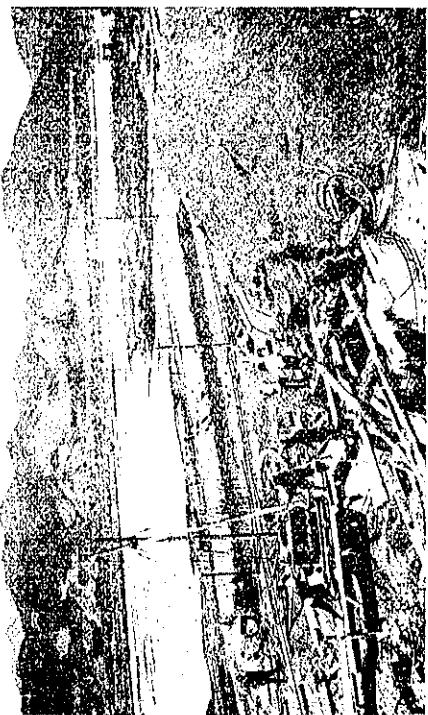
写真第四 シートによる保溫装置並に第一ロットの
コンクリート施工を終れる第二號井筒



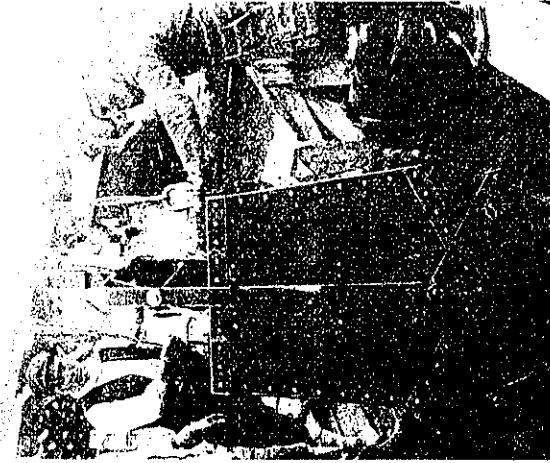
写真第六 荷重積載井筒下



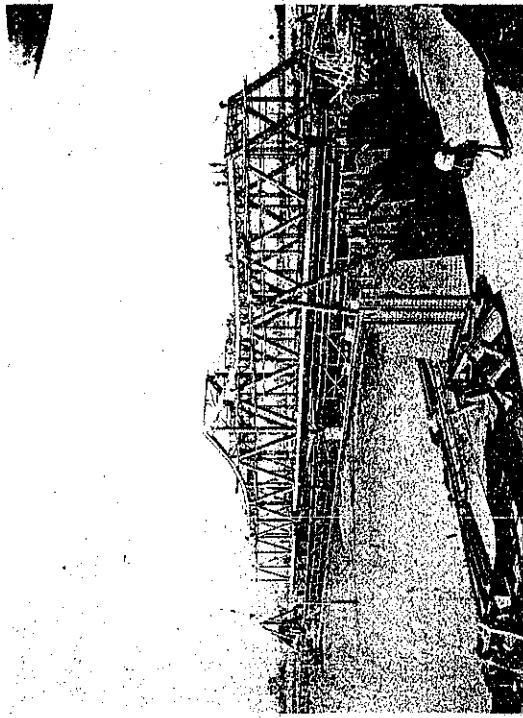
写真第七 中埋コンクリート施工



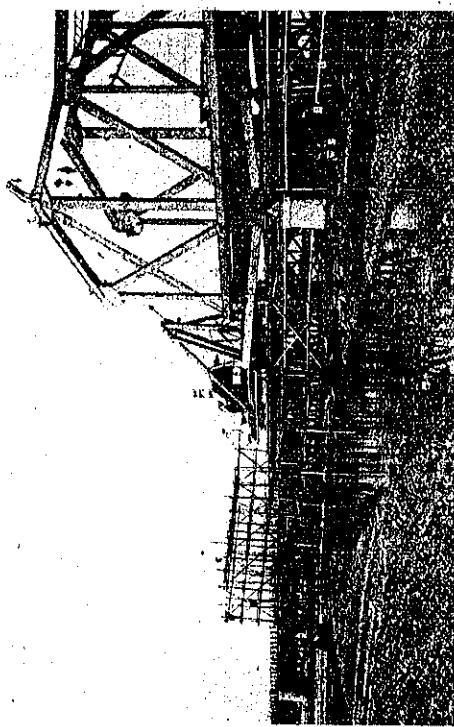
写真第五 底埋コンクリートに使用する水やバケット



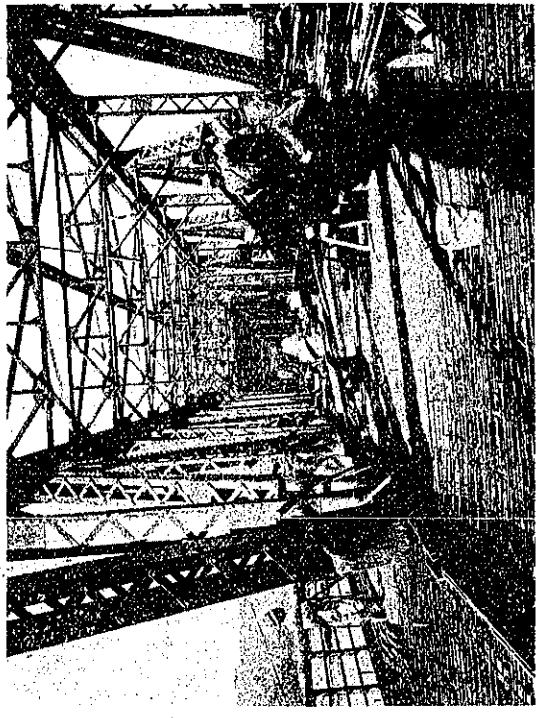
寫真第八 鋼材組立並に橋脚上のがセット



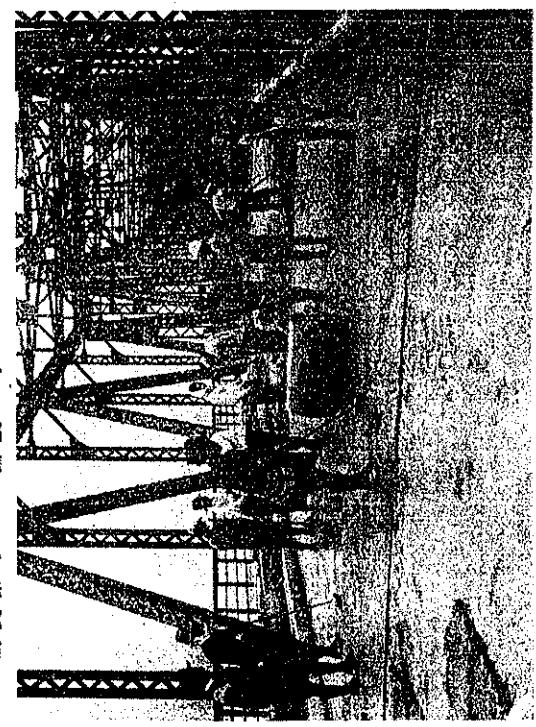
寫真第九 鋼材組立工事



寫真第十 床版コンクリート工事

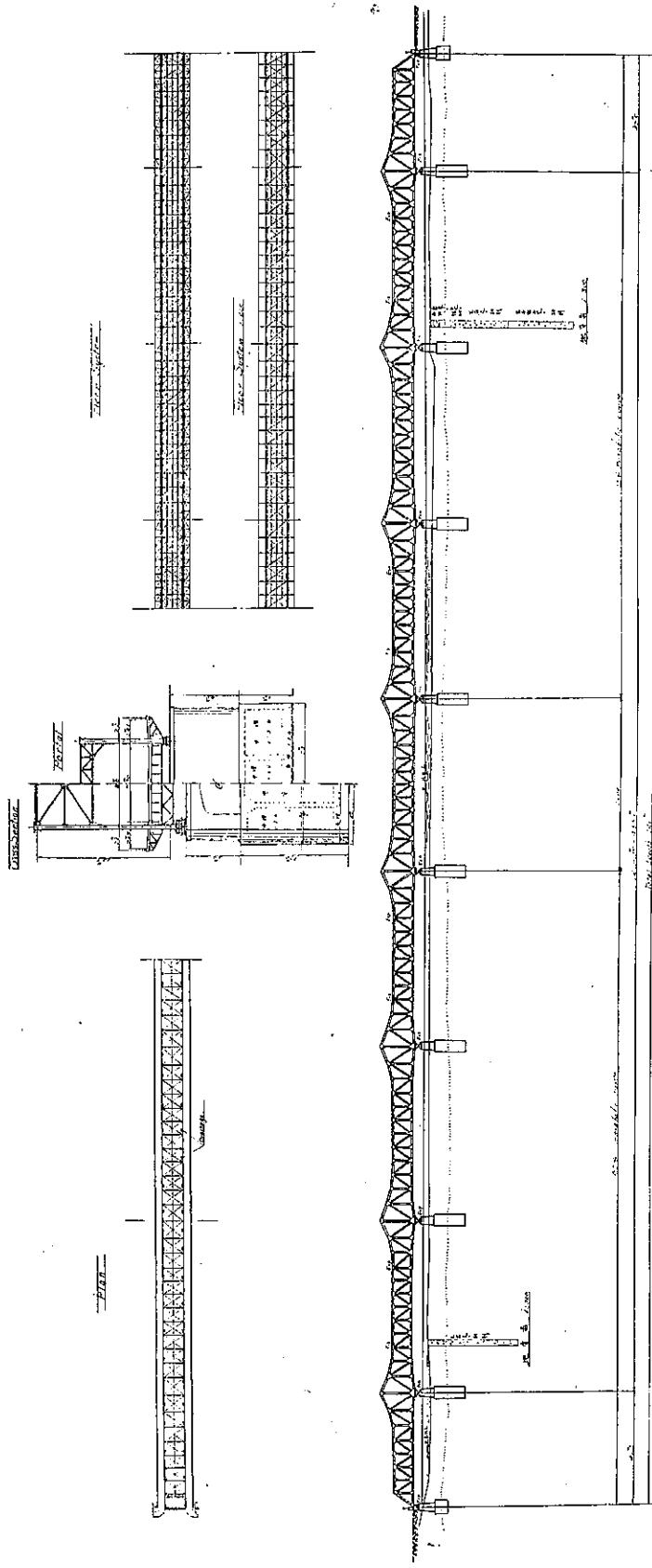


寫真第十一 鋼製工事

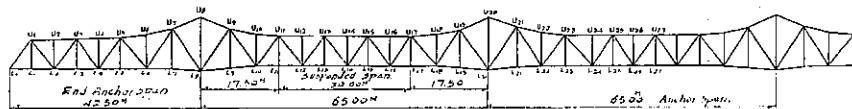


260

附圖第一



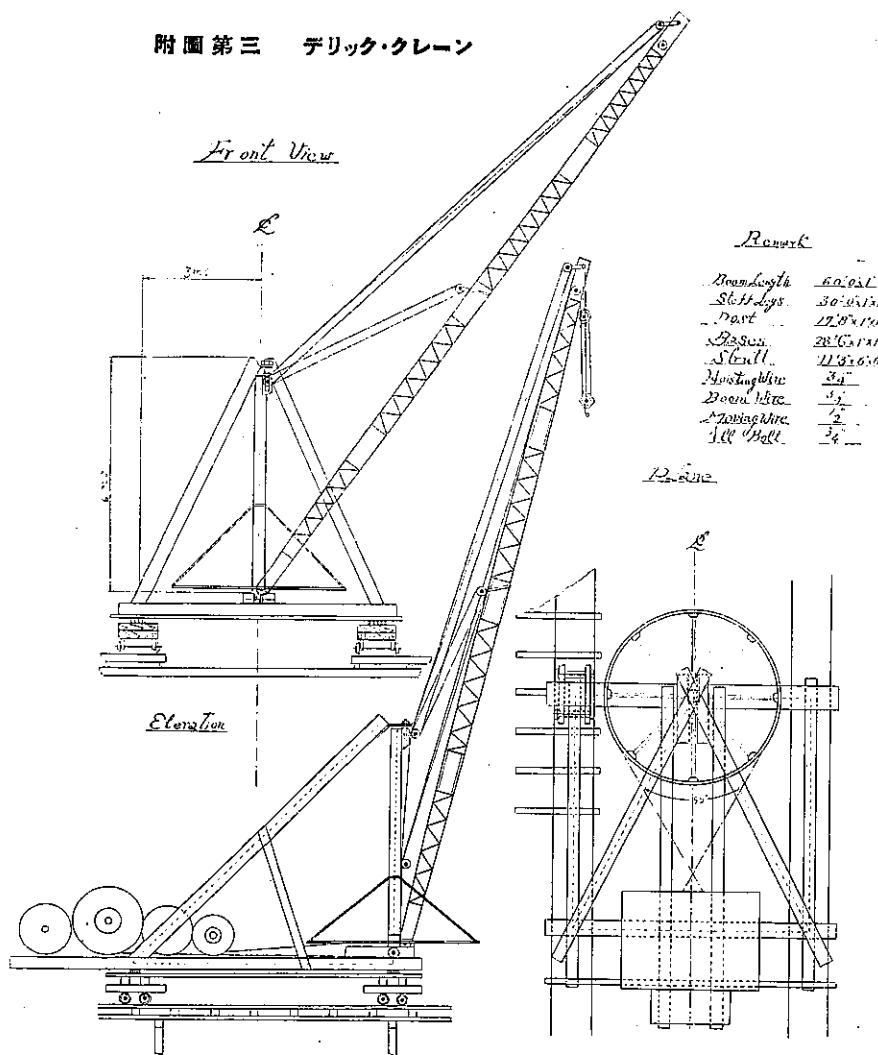
附圖第二 各部材の断面



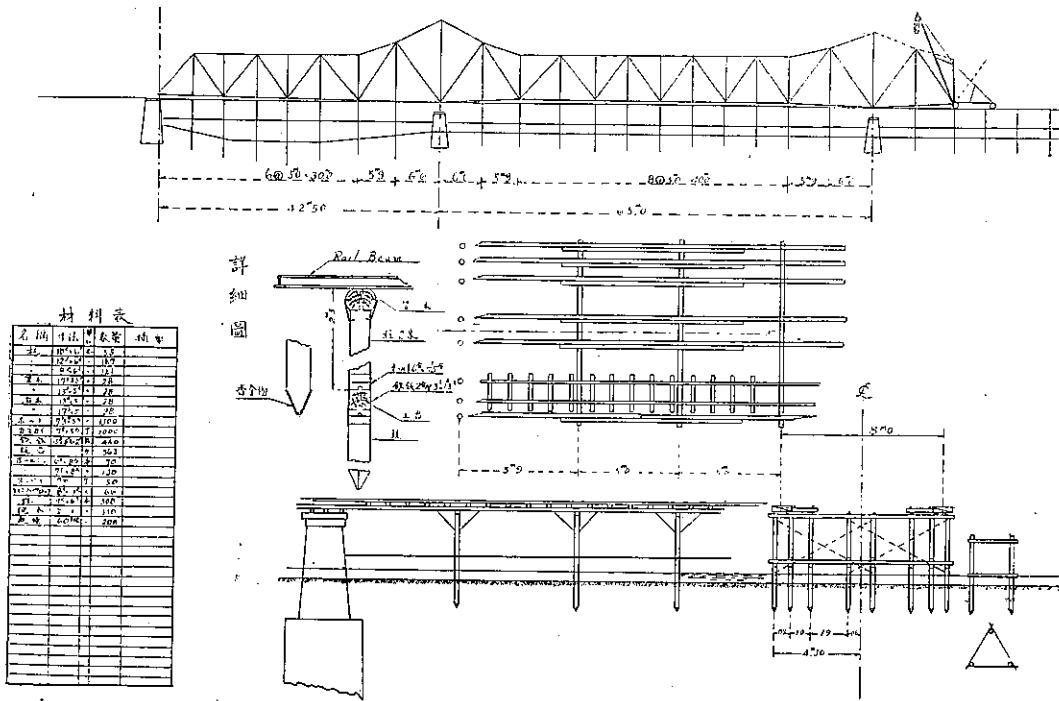
附圖第三 テリック・クレーン

266

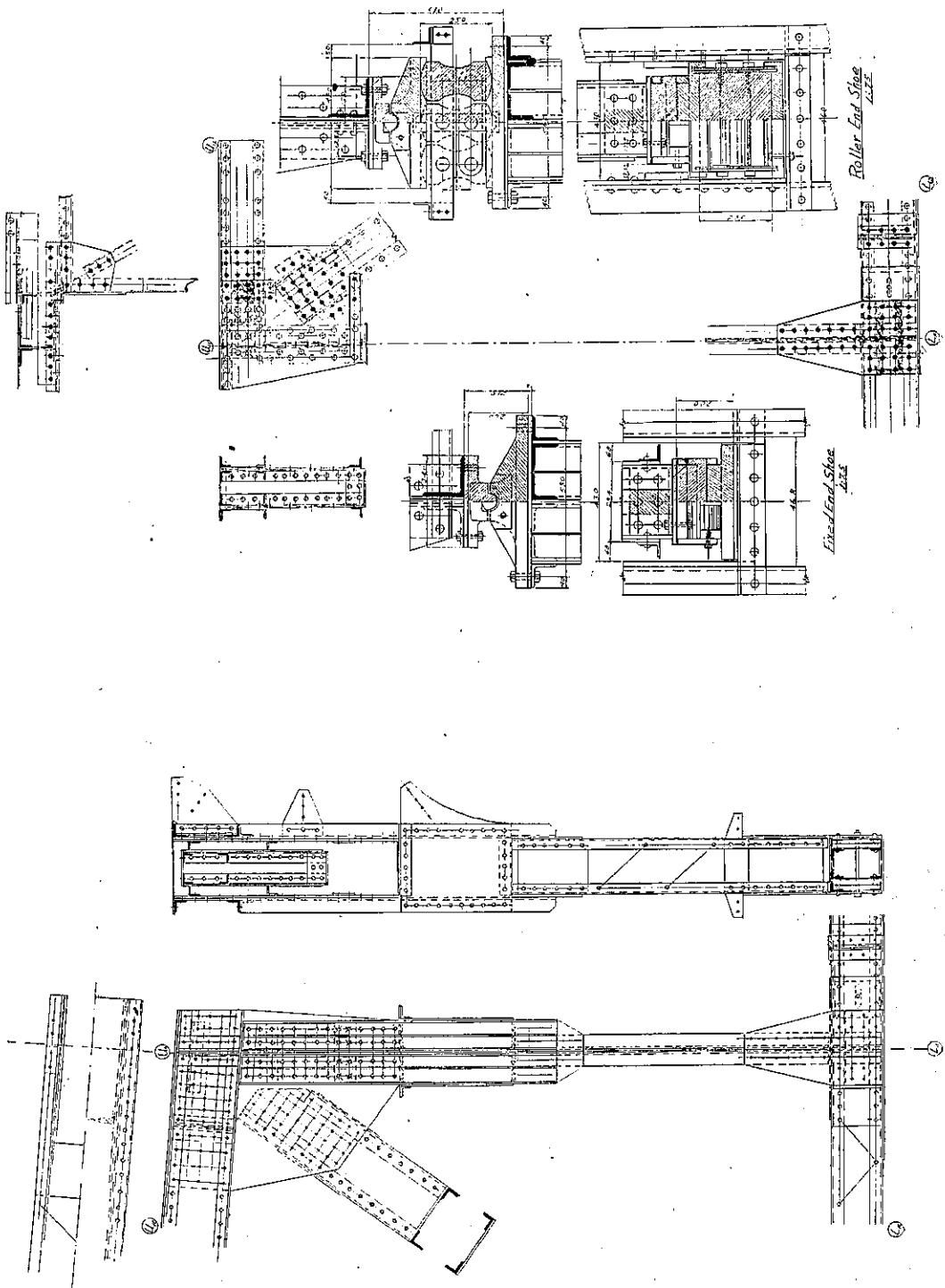
Front View



附圖第四 足場組立圖



250-7



附圖第五 伸縮接合ボックスの詳細図

附圖第六 床版縱斷面圖

